

むつ市における堆積土砂排除事業



堆積土砂排除事業活用の経緯

- ① 令和3年8月9日～10日
大畑町赤川村(都市計画区域外)において、記録的な大雨により小赤川上流から大量の土砂・流木が流出し、河口にある小赤川橋が崩落したことにより、河川の水が住宅街を流れることとなり、土砂が堆積
- ② 8月17日～
仮橋が設置され車両通行可能となったことから、土砂の撤去作業スタート
 - A) 航空写真から土砂の堆積範囲を確認し、区域面積を6,459㎡と推定
 - B) 現地において目視で土砂の堆積状況を確認し、平均堆積厚を70cmと推定
 - C) A、Bから4,521.3㎡(6,459㎡×0.7m)が堆積していると推計
⇒規模要件である『一団をなす堆積土砂が2,000㎡以上』を満たす(宅地以外の土砂も含めて良い)
 - D) 現地において被災戸数が16戸あることを確認
⇒地域要件である『都市計画区域外における被災戸数が10戸以上』を満たす
 - E) 公衆衛生上の問題や二次災害の恐れがあることから、公益上重大な支障があると市長が判断し、市による直接排除を決定
- ③ 8月21日～
土砂集積場に、i)風間浦村下風呂甲平ノ上(～9月9日)、ii)旧下風呂小学校(9月10日～)を指定し、土砂の運搬等作業をスタート→9月28日には運搬・成形まで終了
最終的な土砂量：1,430㎡